

木津川市地域公共交通総合連携協議会 会議結果要旨

会議名	第 67 回木津川市地域公共交通総合連携協議会		
日 時	令和 6 年 6 月 26 日 (水) 午前 9 時 30 分～午前 11 時 40 分	場 所	木津川市役所 会議室 4 - 4
出席者 〔出席者…■ 欠席者…□〕	<p>委 員</p> <p>【学識経験者】 <input checked="" type="checkbox"/> 大庭 哲治委員 (副会長) ■ 井上 学委員 <p>【市民代表】</p> <input type="checkbox"/> 園田 仁志委員 ■ 出石 順大委員 <input checked="" type="checkbox"/> 桑原 久和委員 ■ 岡野 陽平委員 <input checked="" type="checkbox"/> 上月 俊行委員 □ 木村 剛委員 <input type="checkbox"/> 福井 康裕委員 ■ 辰巳 潤委員 <input checked="" type="checkbox"/> 中森 啓之委員 <p>【事業者】</p> <input checked="" type="checkbox"/> 吉田 敦亘委員 <input checked="" type="checkbox"/> 山本 修委員 ※代理：鷺谷 毅 (新田辺駅副駅長) <input checked="" type="checkbox"/> 大西 秀樹委員 ■ 津田 秀夫委員 <input checked="" type="checkbox"/> 足立 高広委員 □ 大江 正泰委員 <input type="checkbox"/> 加藤 隆委員 □ 梅田 幹夫委員 <input checked="" type="checkbox"/> 今西 宏委員 <p>【行政機関】</p> <input checked="" type="checkbox"/> 中野 幸太委員 <input type="checkbox"/> 今城 由貴委員 <input checked="" type="checkbox"/> 松永 弘道委員 ■ 安藤 浩道委員 <input type="checkbox"/> 村上 敬信委員 <input checked="" type="checkbox"/> 谷口 雄一会長 □ 稲垣 勝彦委員 <input checked="" type="checkbox"/> 久保田 明委員 ■ 山本 昌宏委員 </p>		
事務局	船岡政策監、茅早事務局長、西村事務局次長、吉田主幹、楠見主任、井村主任		
傍聴者	8 人		
議 題	<p>1. 開会</p> <p>谷口会長より開会のあいさつがあった。</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>①木津川市コミュニティバスの利用状況について【資料 1】</p> <p>②令和 5 年度決算報告について【資料 2】</p> <p>③公共交通利用促進 P R ポスターについて【資料 3】</p> <p>④共創・M a a S モデル実証プロジェクト (モビリティ人材育成事業) について 【資料 4】</p>		

	<p>⑤高齢者健康増進・移動支援モデル事業の取組みについて【資料5】</p> <p>(2) 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①令和6年度補正予算第1号(案)について【資料6】 ②奈良交通路線バス加茂線の運行について【資料7】 ③木津川市地域公共交通計画の変更について【資料8】 ④地域公共交通確保維持改善事業 生活確保維持改善計画（案）について【資料9】 <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ①次回協議会の日程について ②その他 <p>3. 閉会</p>
会議結果要旨	<p>1. 開会 事務局より開会の宣言があった。</p> <p>2. 議事 議長から運営内規に基づき、会議録の署名委員として上月委員を指名した。</p> <p>(1) 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①木津川市コミュニティバスの利用状況について 資料1に基づき、事務局から報告があり、確認した。 ②令和5年度決算報告について 資料2に基づき、事務局から報告があり、確認した。 ③公共交通利用促進PRポスターについて 資料3に基づき、事務局から報告があり、確認した。 ④共創・MaaSモデル実証プロジェクト（モビリティ人材育成事業）について 資料4に基づき、事務局から報告があり、確認した。 ⑤高齢者健康増進・移動支援モデル事業の取組みについて 資料5に基づき、事務局から報告があり、確認した。 <p>(2) 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①令和6年度補正予算第1号(案)について 資料6に基づき、事務局から提案があり、原案の通り承認した。 ②奈良交通路線バス加茂線の運行について 資料7に基づき、事務局から提案があり、承認した。 ③木津川市地域公共交通計画の変更について 資料8に基づき、事務局から提案があり、原案の通り承認した。 ④地域公共交通確保維持改善事業 生活確保維持改善計画（案）について 資料9に基づき、事務局から提案があり、原案の通り承認した。 <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ①次回協議会の日程について

<p>会議経過要旨 ◎議長 ○委員 →事務局</p>	<p>後日通知することとした。</p> <p>3. 閉会</p>
	<p>1. 開会 会議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>①木津川市コミュニティバスの利用状況について 【配布資料】資料1-1、資料1-2、資料1-3、補足資料1 【主な意見・質疑等】 ○令和5年度実績がコロナ禍前の水準を超えているのは素晴らしいと思う。 一方で、デマンド交通については苦戦しているという印象を受けた。7、8月で京都府がエコサマーの取組をやるということなので、そういう取組を進めることで利用者がまた増えるのではないか。こうした取組は木津川市単独で行うのではなく、山城地域の市町が連携して、観光客の取り込みなどを進めていかなければよいと思う。 →夏季は京都府域の取組として「きょうとエコサマー」があるので、子供たちが公共交通を利用するきっかけになればと思う。観光利用に関しては、当尾線の利用が増えており、今年の秋季もしっかり観光利用を取り込んでいきたい。 ○コロナ前の水準に近づきつつあり、望ましいトレンドかと思うが、一方で、路線バスの削減によって利用者が流れたという要因分析もあるので、利用促進によって利用者が増えていくように、ひいては、公共交通の利便性向上につながるように取組んでいただきたい。 ○フリー乗車券の1日あたりの利用者数などの定量的なデータがあるかどうか、費用対効果がどうか、本当に利用促進をするのであればもう少し定量的な目標を設定すべきではないか。 →1日乗車券について、購入した人がどの程度使っているのか把握できていない。木津川市のコミュニティバスは路線によって運行事業者が異なり、うまく乗り継ぎができないという点があり、1日乗車券を設けているが、紙媒体であるため、こうしたデータが手元資料としてはない。</p> <p>②令和5年度決算報告について 【配布資料】資料2-1、資料2-2、資料2-3 【主な意見・質疑等】</p> <p>意見・質疑なし</p> <p>③公共交通利用促進PRポスターについて 【配布資料】資料3 【主な意見・質疑等】 ○加茂駅で見たが、場所的にちょっと見づらい場所に掲出している印象を持った。ポスターのサイズがかなり小さいので、もう少し目立つようなポスターであつたらいいの</p>

<p>にと感じた。</p> <p>◎ポスターは何パターンくらい作成したのか。</p> <p>→2パターン作成した。サイズについては、掲出場所によって変えている。</p> <p>◎ポスターをデザインされたのは木津川市在住の方か。</p> <p>→木津川在住の方で、お子様が小さいときに100円でバスにたくさん乗れてよかつたと感じていただいている方に作成をお願いした。</p> <p>○利用促進ポスターはSNS等に展開しているのか。公共交通利用促進ポスターを駅に貼ってあまり意味がないのではないかと思う。</p> <p>→ポスターは現在、駅やバス車内の掲示にとどまっており、SNSなどより効果的な掲示方法を検討したい。</p> <p>④共創・MaaSモデル実証プロジェクト（モビリティ人材育成事業）について</p> <p>【配布資料】資料4</p> <p>【主な意見・質疑等】</p> <p>○城山台は、市内で「台」のつく地域では最も人口が多い。そのような地域で奈良交通のバス路線が廃止になるかもしれないということを聞いているので、早急に地域の足を確保するように考えていただきたい。私は老人会を代表して来ているが、80歳を超えると免許返納者が増え、そうなると移動の「足」はバスとなる。タクシーだと費用が高い。以前、奈良市に住んでいたが、奈良市は75歳以上が無料で利用できたが、最近は100円になった。奈良市も地域が広くなり、柳生などから市内に出てくると1,000円程度かかるので、高齢者は非常に喜んでいると思う。きのつバスも以前は1回100円だったが200円になった。せめて高齢者は100円で利用できるようにしてほしいという声を多く聞いている。</p> <p>○城山台をモデルにされているということだが、一番必要なところをモデルにして進めたほうがよりアピールになるのではないか。なぜ城山台がターゲットにしているのか。皆さん公共交通を使っておられない地域で自動運転をするのではなく、高齢者が困っておられる地域に行政は手を差し伸べるべきだと思う。</p> <p>→奈良交通の路線再編提案で一番影響のあったのが、南加茂台と城山台であり、城山台については、非常に若い世代が多いという中で、なかなか公共交通を利用していただけていないという現状がある。一方、今回次世代に向けたモビリティサービスという観点では、例えば自動運転というのも想定している。一番新しい城山台が、公共交通の空白地帯にならないために、まず、お住まいの方や立地企業の方に、どうすれば公共交通を守ることができるのかというあたりについて、住民ワークショップ等を通じて、まずは意識を変えていってもらう、というところから取組みを始めたい。</p> <p>○まさにそこが問題点。一番木津駅に近く、皆さんが公共交通を使っておられない地域で自動運転をするのではなく、高齢者が困っておられる地域に行政は手を差し伸べるべきだと思う。この感覚がズれているから、常に議論をしないといけないのだが、なぜ一番便利なところでやるのか利用者委員としては歯がゆい。やりやすいところではなく、困っているのはどこかということをまず行政は考えるべきだ。単に城山台で自動運転して乗ってもらうより、より困っておられるところがあつて、そこにターゲットをもつていった方が住民も喜ぶ。同じ税金を使うのであれば、そこを意識すべきだと思う。</p> <p>○ご指摘のあった高齢者の移動手段について考えていく必要があると健康福祉部とし</p>

では考えている。特に高齢者の方が移動手段を持たないことで家の中に引きこもりがちになったりすると健康状態が悪くなったり、いろいろな病気のリスクも高まる。そういう意味で、健康福祉部として、高齢者対策も含めて今後何らかの移動手段を講じていく必要があると認識しており、このあと高齢介護課より報告する高齢者を対象とした移動モデル事業にも取り組んでいきたいと考えている。公共交通の面からと、その一方で高齢者の移動手段をどう確保していくのかということについて、行政としても課題であると考えており、ご指摘の意見については受け止めさせていただき、モデル事業を進めていきたい。

◎今回申請した事業は人材育成の事業であること、また、事業主体は木津川市ではなく一般社団法人であることで、そちらで城山台が適した地域と認識されたのだろうと思う。いろいろな地域でいろいろな課題があり、高齢者の足の確保や健康問題を含めて、どのように問題を解決するかという点で、対象とすべき地域は他にもある。ただ、この地域においてこの事業が適しているという判断のもと申請したということなので、事業推移を見守り、育成された人材をぜひ南加茂台や他の地域へも展開していく、市全体のモビリティの活性化につなげていただきたい。

○モビリティ人材育成事業は、国の事業に市が申請するのか。

→国交省に対してスマートシティ協議会が申請している。協議会メンバーに木津川市が入っているという構図である。

○モデル事業は830万円の裏議が通っているのか。またこの金額で足りるのか。

→行政のシステムとして、事業を実施するうえでは予算が必要になる。こちらは新たな施策ということで、現在開催中の議会にあげている。議会で承認されれば、予算執行できることとなる。830万円で足りるのかという点は、これは令和6年度の予算であり、令和7年度分は改めての予算計上となる。今回はシステム経費と運行のランニングコストを見込んでいる。

⑤高齢者健康増進・移動支援モデル事業の取組みについて

【配布資料】資料5

【主な意見・質疑等】

○移動に困っている地域にスポットを当てることは大事だと思うが、加茂地域内だけではなく、木津駅や山城総合医療センターまでとしたほうが、より利用されるサービスになると思う。また、南加茂台地域だけで実施するとなれば、加茂地域の他の方々がどう感じるか、少し離れた地域のことも考慮して施策を考えていただきたい。

○木津川市の中で、特に南加茂台地域の高齢化率が高い。今回モデル事業に取組み、このようなサービスが高齢者の方々になじむのか、きちんと実証したいと思っている。本協議会にも報告しているのは、交通事業者が地域での公共交通をどう維持していくかという議論の中で提案させていただいているものなので、奈良交通の利用者の思いについては理解しているつもりだが、まずはモデル事業をやってみて、定着するのかどうかを検証したい。南加茂台以外にも加茂地域は過疎地域ということでもあるので、加茂駅周辺以外でも高齢化率が高い地域も多く、こうした事業が横展開できるのかを検証していきたい。また、この実証実験を行うことにより、例えば他の地域公共交通の利用が促進され、利用が増えるということが出してくれれば、今回のデマンド型の乗降地点も増やしていくかもしない。まずは、南加茂台地域においてモデル的に実証運行を行わせていただきたい。

○なぜ加茂地域にこだわり、地域内のサービスに絞ってしまうのか。もう少し地域のことを考えてほしい。JRの利用のこともあるが、もう少し乗り越えてもらいたい。よりスムーズに、目的地まで直接運ぶというサービスとしてほしい。なぜ加茂駅へのアクセスだけにこだわるのか。利用者から運賃を取ってでも、木津駅や山城総合医療センターまでの運行にこだわってほしい。

○料金については、まず利用していただかなければいけないので、当分の間無料とし、いずれ有料も考える。加茂地域外へのアクセスについては、ご意見として承る。

○利便性を高めるという意味で、目的地に直接行けるというサービスの必要性も理解できるが、今回は普通乗用車1台であるということ、それから、無料であるということ、いろいろな制約条件がある。そのなかで、どうやって目的を達成するかということを考えたとき、1台の自動車で長距離の移動があるとその間は他の方は使えない。まずは、加茂駅へのアクセスできるサービスを展開した場合の利用状況を把握することが求められているモデル事業なのかと認識する。今回、実証期間は令和7年度末までとかなり長い実証期間で、気合の入った取組になる。ぜひ実証のスタートにあたって、南加茂台地域の皆様に周知いただきたい。今回の目的は高齢者の移動支援と健康増進でそれをどう達成するのか、そういった観点で事業内容を見ていただき、改善すべきところは改善していっていただきたい。いろいろなご意見はあることは理解するが、限られた予算と車両台数の中で実証を行うということを踏まえて、状況を見守っていいただきたい。

○今回は高齢者のみを対象とした取組で、今後のご利用を伺っていく中で、安くて乗り換えなしで行きたいという声が絶対に出てくると思うが、個人の幸福を最大化する方法を達成した結果、他の多くの方々が不便になるということだけは起こさないようにやっていただきたい。

バスが非常に大変な状況で、昼間の利用を増やさないといけない時間帯に同じような交通サービスを導入されようとしているので、もしこれを本格的に展開していくとした場合、既存の公共交通が影響を受ける可能性がある。全体の調和を考えたうえで、個人の幸福の最大化を考えていただきたい。

また、実証を行うなかで、利用者数が少ないということを問題にすべきではない。利用者が少なくとも、本当にお困りの方に届いているかの点で検証が必要。

併せて、自家用車からの転換があるかについても、見ていていただきたい。

○協議会の場は、地域交通をいかに残していくかという論点であり、国交省もいかに地域交通を残すかという立場である。かたや、国交省としては交通バリアフリーも積極的に推進している。木津川市はマップも作成されており、こうしたツールを活用すれば、公共交通でうまく移動することができる。歩けるところは歩いたほうが健康増進につながるので、今回のサービスを使えば山城総合医療センターにも1回乗り換えれば行けるという考え方もある。今ある公共交通をどうやって残していくかということを、高齢者の方々も一緒に考えていただきたい。

○皆さんや南加茂台地域の高齢者の方々には、どういうモビリティの選択肢があるのかということを把握されていない方もいるかもしれない。どういう移動手段が選択肢としてあり、それを日々どう使っているのかを改めて考えていただきたい。選択肢が他にもあるということをしっかりと知ったうえで、地域にとってより良いモビリティのあり方を考えていただきたい。また、昨今バリアフリー化が進んできているが、細かいところまで目を向けていただきたい、いかに高齢者に寄り添った施設の状況やサービ

スになっているかを今一度確認するべきだと思う。今回のモデル事業は長期にわたつて行うので、南加茂台地域の方々にもこのサービスを知ってもらい、交通や移動のことを考えていただきたい。

(2) 協議事項

①令和6年度補正予算第1号(案)について

【配布資料】資料6-1、資料6-2

【主な意見・質疑等】

意見・質疑なし

②奈良交通路線バス加茂線の運行について

【配布資料】資料7

【主な意見・質疑等】

⑤加茂線はいったん廃止という判断をしたところだが、その後、1年間の継続運行につながっている。奈良交通の立場としては赤字路線を解消したい、また、運転手の問題もあるかと思うが、そのあたりを踏まえた実現可能性について伺いたい。もう1つは、③が市としては望ましいが、国庫補助を充てにしているというところであるが、利用者が確保できないとなかなか説明がつかない。③の年間49万人の達成可能性と、市負担の1,700万円の実現可能性についても伺いたい。

○当社としては、基本的には、路線として収支均衡であれば維持をしたいということで当初より申し上げてきた。運転手の問題は収支に關係なく、運転手を確保できなければ維持できない。人材確保については、以前から取り組んでおり、二種免許を持っている人を社内で育成したり、人材採用も進めている。そういうことをやっても急には改善しないというのが現状である。インフレを含めて輸送コストが上がってきている。その6割が人件費であり、2月に運賃改定を行い、労働条件の改善にも充てていき、運転手の確保を進めている。今のところ、全社で850人ほどの運転手が必要だが、30名程度マイナスというところでとどまっている。努力を怠るとすぐにマイナスになるので、今後とも努力したい。

→人材確保については奈良交通からも確保に努めていると伺っている。地域公共交通計画の中でも、担い手の確保を施策として挙げており、市としても支援できるところはしていきたい。1,700万円というのは少なくないと認識している。人件費の高騰を踏まえると、利用人数が増えていかないと負担額は増えてしまう。利用促進に努めていきたい。

○市の負担額が積み上がっていかないよう、条件というのをしっかりと定めていくべきだと思う。

○国庫補助について、令和7年度にあたる今年10月からは無理だと思うが、令和8年度からの活用という理解でよいか。

→今回、お認めいただければ、地域間幹線系統の令和7年度（本年10月～）の幹線系統の補助活用を考えている。

○申請書にも記載のある通り、国の予算を投入するために利用促進に努めていただく必要がある。地域の皆様にもぜひ積極的なご利用をお願いしたい。

③木津川市地域公共交通計画の変更について
【配布資料】資料8
【主な意見・質疑等】

意見・質疑なし

④地域公共交通確保維持改善事業 生活確保維持改善計画（案）について

【配布資料】資料9-1、資料9-2、資料9-3

【主な意見・質疑等】

○系統を京都府と奈良県を分けて記載しているが、1つにまとめてもよいのではと感じた。

→記載方法については、事前に運輸支局に確認し指導いただいている。記載を分けて記載している理由としては、京都府と奈良県で単価が異なるためである。

○資料9-2のP. 7の運行系統名が「梅谷高の原線」となっており、これは「加茂線」の間違いではないか。

→修正のうえ申請する。

(3) その他

①次回協議会について

例年は10-11月頃の開催だが、加茂線の利用状況を見守っていく必要もあることから、学識の先生ともご相談のうえ、適切な日程を設定することになった。

②情報共有について

市民から山城病院からタクシーを呼んだ時にタクシーが捉まらないという意見があった。人員・配車も難しいところがあるかと思うが、木津駅で客待ちのタクシーなどを回すなど、ご配慮・ご検討をいただければと思う。

3. 閉会

以上。